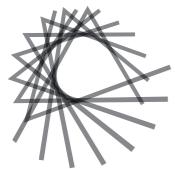


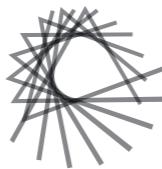
共創の推進



サイエンスアゴラ

多様なステークホルダーが
対話・協働する科学フォーラム

科学と社会をつなぐ日本最大級のオープンフォーラム「サイエンスアゴラ」を開催し、多様な価値観を認め合いながら皆が共に考え、社会課題の解決や未来社会の創出を目指す共創を推進しています。



サイエンスアゴラ
連携企画

地域課題解決に向けた共創を推進

対話を通じて自律的で持続的な地域社会の発展に貢献することを目指し、全国各地の大学等と共に開催でサイエンスアゴラ連携企画を開催しています。



未来社会デザイン
オープンプラット
フォーム (CHANCE)

未来の社会像をデザインし
研究開発戦略に反映

多様なセクターから幅広い知見を持ち寄る共創ネットワーク「未来社会デザインオープンプラットフォーム(CHANCE)構想」を賛同機関とともに推進しています。共創により得られた社会的期待や課題を戦略策定や研究開発につなげることで、研究開発成果の最大化や実装の促進、社会課題解決への貢献を目指します。



'STI for SDGs'
AWARD

「STI for SDGs」
アワード

科学技術・イノベーションを用いて
社会課題を解決する地域の優れた取組を表彰
「STI for SDGs」アワードは、科学技術・イノベーション(STI)を用いて社会課題を解決する、日本発の優れた取り組みを対象とした表彰制度です。受賞した取り組みのさらなる発展や、同じような課題を抱える他地域での活用をすすめることで、SDGs達成への貢献を目指しています。

国立研究開発法人 科学技術振興機構
社会技術研究開発センター

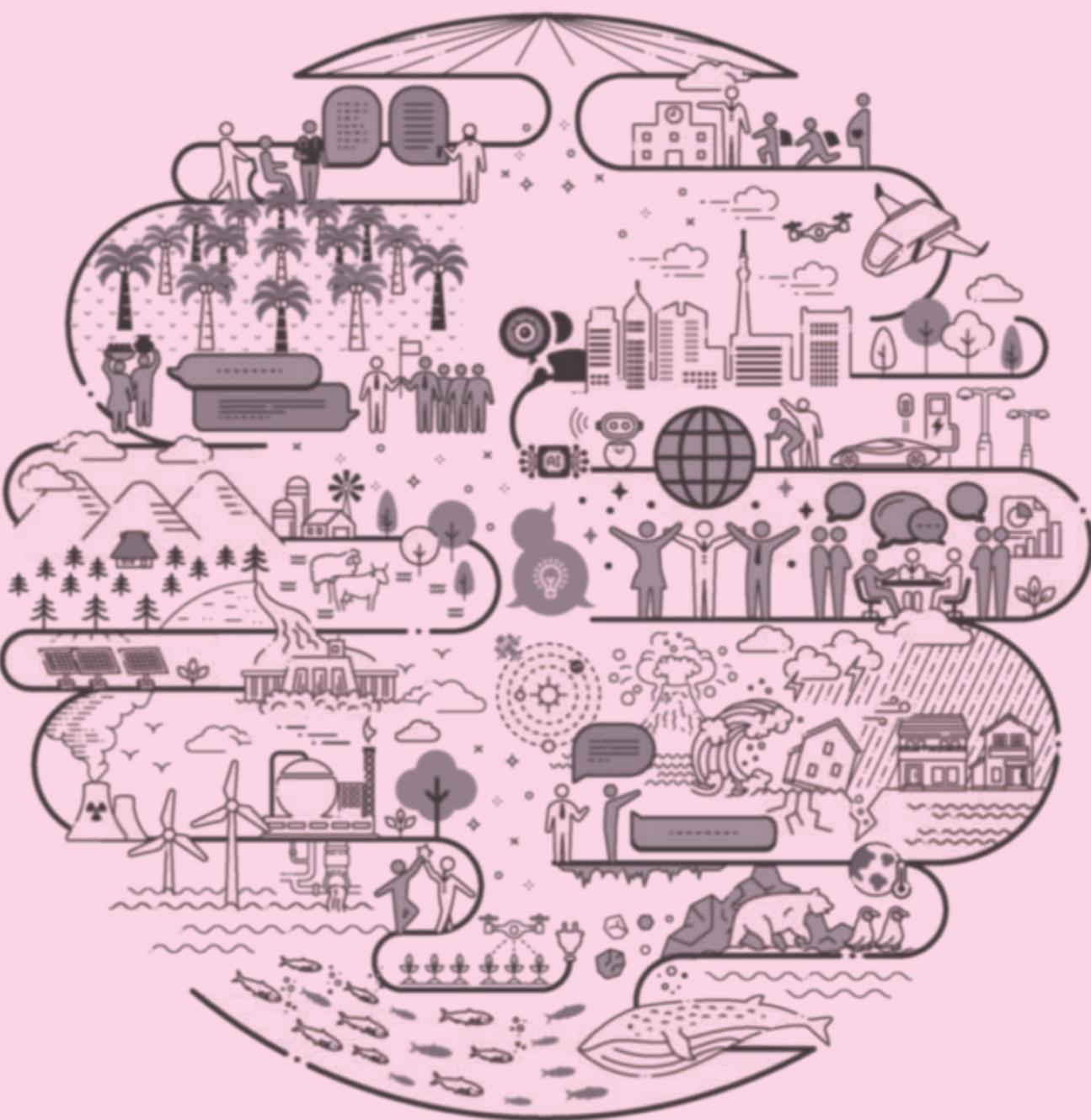
〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
電話 : 03-5214-0130(代表) FAX : 03-5214-0140

<https://www.jst.go.jp/ristex/>



RISTEX

社会技術研究開発センター





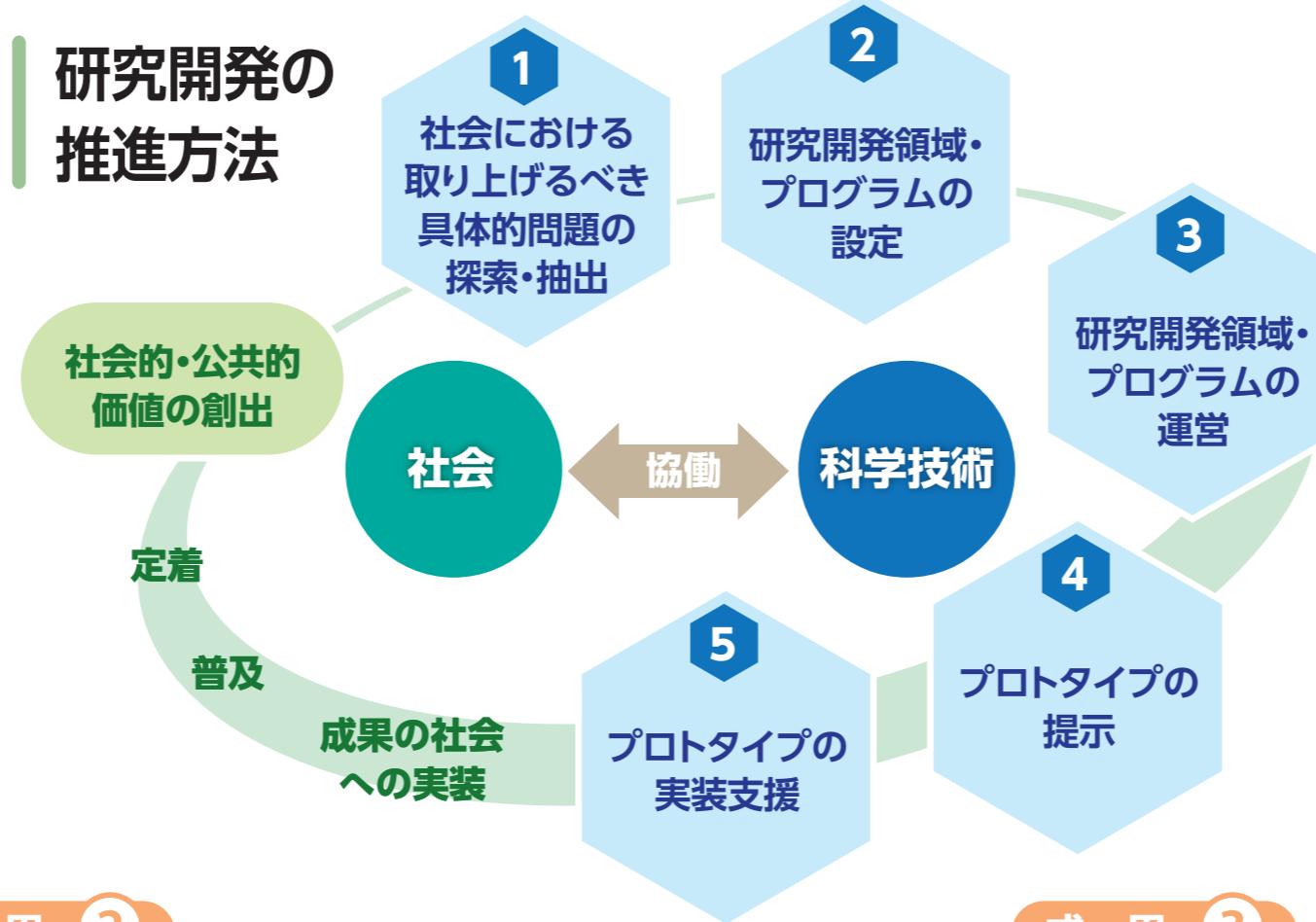
センター長メッセージ

学術の目的についてはさまざまに議論されてきました。真理の追求はもちろんですが、同時に社会の課題解決にも役立ってほしいという考え方が近年重視されるようになっています。RISTEXはこの問題意識のもと、社会にとって重要な課題を探り、その解決に資する学問を総動員し、その課題に直面する当事者も巻き込んだ、新たなスタイルの研究開発（社会技術研究）を20年にわたって支援してきました。文系・理系を問わず、研究者か否かを問わず、課題解決に向けた研究をということで、最近では総合知、RRI*、トランスディシプリナリー研究などと呼ばれ、世界で注目されています。

センター長
小林 傳司

*RRI: Responsible Research and Innovation: 責任ある研究・イノベーション

研究開発の推進方法



俯瞰調査

RISTEXでは、複雑な社会問題の構造を整理し、多角的な視点から社会問題の重要度を可視化するための俯瞰調査を平成20年から実施しています。調査結果は、RISTEXが推進する研究開発領域・プログラムの設定に活用するだけでなく、産学官民のステークホルダーの方にも、広く活用いただくことも目的としています。

成 果 1

子どもの社会的孤立・孤独の予防

（社会福祉学）（AI）（企業）（学校）



すべての子どもの社会的孤立・孤独・排除を予防する学校を中心としたシステムの開発（令和3年～）

研究代表者 山野 則子（大阪公立大学 大学院現代システム科学研究科 教授）

AI活用により潜在的なSOSを早期にキャッチし適切な支援に繋げるスクリーニングシステムを、現場実証を経て産業界と共同開発しました。

同システムは、大阪市・神戸市・岡山県奈義町・佐賀県みやき町等、計11自治体67校（令和5年12月時点）の教育現場に導入されています。

<https://www.jst.go.jp/ristex/koritsu/projects/07.html>



成 果 2

社会学・経済学の手法で無償労働の未来を予測

（AI）（家事）（育児）（介護労働）（社会学・経済学）



AI等テクノロジーと世帯における無償労働の未来：日英比較から（令和2年～令和5年）

研究代表者 永瀬 伸子（お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系 教授）

無償労働の未来を予測するため、日英のAI専門家に17の家事労働と介護労働が将来どの程度自動化可能かを推定してもらう調査を実施しました。調査結果からは日本の家庭における男女格差の問題が示唆され、今後の社会の在り方についての政策的議論のエビデンスとしても重要なものとして英国BBCでも取り上げられるなど、社会的インパクトが高い研究です。

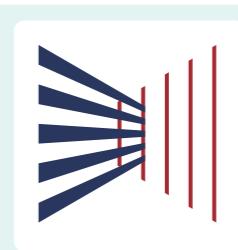
<https://www.jst.go.jp/ristex/hite/community/project000420.html>

進行中の研究開発プログラム



ELSI プログラム（RInCA）

科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に包括的・実践的に取り組む研究開発の推進



SOLVE for SDGs デジタルソーシャルトラスト

情報社会の進展が生む課題に対する社会的側面からのトラスト形成に向け、課題特定から解決までを一貫的に推進



SOLVE for SDGs 社会的孤立・孤独

メカニズム解明からリスク評価手法と予防施策開発、PoC（概念実証）までを一貫的に推進



SOLVE for SDGs シナリオ・ソリューション

SDGsの達成に向けた社会課題解決のシナリオ創出からソリューション創出までを一貫的に推進



政策のための科学

エビデンスに基づく合理的な政策形成プロセスを構築するための指標や手法の開発

成 果 3

東日本大震災において多くの命が救われた平時からの備え

（予測技術）（防災）（津波）（防災教育）



津波災害総合シナリオ・シミュレータを活用した津波防災啓発活動の全国拠点整備（平成20年～平成24年）

研究代表者名 片田 敏孝（群馬大学名誉教授）

津波防災教育ツール「津波災害総合シナリオ・シミュレータ」を用い、災害に強い地域をつくるための住民への意識啓発活動や小中学生への防災教育活動を何年にもわたり継続。東日本大震災では岩手県釜石市においては想定をはるかに上回る津波に襲われましたが、日ごろから行っていた防災教育・訓練により、中学生が小学生を引率して冷静に避難を行い、生徒は全員無事に避難することができました。



<https://www.jst.go.jp/ristex/implementation/development/tsunami.html>